

2020年5月

【管内情報】

今年度も牧草のシーズン到来

碓高原牧場には55ha（甲子園球場14個分）の採草放牧地があり、うち約20haの採草地で、オーチャードグラスなど3種類のイネ科牧草を混合して播種し、栽培しています。

今年度も平年並みの生育状況で、1番草の収穫適期を迎えた5月11日に刈り取りを開始し、天候を見ながら6月上旬頃まで続く予定で、昨年度と同様の収量が見込まれます。

今後、秋までに刈り取りを3~4回行って、年間通じて良質な自給飼料として家畜に給与します。



収穫作業（ふれあい広場を望む）



刈り取り



梱包



ラッピング

碓高原牧場

乳牛の飼料用イタリアンライグラスの収穫が終了

当センターでは、飼育する乳牛の飼料となるイタリアンライグラス、スーダングラスを作付けしています。

4月23日から開始した春作のイタリアンライグラスの一番草の収穫は、天候にも恵まれ順調に作業が進み5月14日に終了しました。

8.5haの圃場から約140tの収穫を行い、468個のロールラップサイレージとして貯蔵し、1年間利用します。

今後はイタリアンライグラスの二番草の収穫を行うとともに、堆肥や肥料を散布して土作りを行い、秋作のスーダングラスの種を播いていくこととしています。



約300kgのラップサイレージとして貯蔵し、約2ヶ月後から給与を開始します。

畜産センター

農家から新たに乳用育成牛を導入

碓高原牧場では、府内の酪農家から後継牛となる育成の雌乳牛（ホルスタイン種 2～8 か月齢、ジャージー種 12～16 か月齢を導入後、受精卵移植や人工授精で受胎させ、分娩 2 か月前に酪農家に譲渡する「乳用育成牛繁殖・譲渡事業」を行っています。

今年度も 5 月 7 日より、南丹・中丹・丹後管内の 9 戸の酪農家から、25 頭(ホルスタイン種 23 頭、ジャージー種 2 頭)を順次牧場に迎えました。

導入された育成牛は、放牧場に出ることによって足腰を鍛え、長期にわたって搾乳と出産が可能な健脚で丈夫な牛になります。同時に受精卵移植で和牛(黒毛和種)の子牛を受胎させ、優良肉用子牛の増頭にもつながることから、府内の酪農家からだけでなく肉用牛農家からも喜ばれています。



導入する子牛をトラックへ積載



導入した子牛を放牧

碓高原牧場